

## 透析患者におけるリン吸着薬適正化～スタッフによる患者教育と主治医の定期的な処方調整の重要性

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック 大村腎クリニック

○吉野秀章 中嶋幸海 小嶺真耶 河津多代 前川明洋 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越哲

### 【背景】

当院では、リン吸着剤(PB)の服薬アドヒアランス向上を目的に多職種によるチームを結成し、スタッフによる患者教育を行っている。今回、新たに血清リン値によってPB処方量を適正化させるPB調整フローチャートを作成し、その有用性を検討した。

### 【対象】

PBを内服している当院外来透析患者のうち、2021年1月から3月までにフローチャートの適応となった94名(男性58名、女性36名、平均年齢66.4±9.7歳、平均透析歴9.4±8.6年)。

### 【方法】

PB調整フローチャートに従ってPB調整割合を決定し、主治医の判断と患者の同意の元にPB量を調整した。その後のPB処方数と血清リン値の推移を比較した。

### 【結果】

3ヶ月間でPBが減量された患者は50名、不変であった患者は32名、増量した患者は12名であった。PB処方数は月平均一人当たり139.5錠から85.7錠へ有意に減少した。PBを減量した患者の血清リン平均値は減量前 $4.9 \pm 0.77$  mg/dl、減量後 $5.0 \pm 0.97$  mg/dlと有意な上昇は認められなかった。

### 【考察】

今回、半数以上の患者でPB処方数は減少し、これらの血清リン値が不変であったことは、フローチャート化により主治医や患者にとってオープンで明確な基準が示されたことと、継続的な患者指導により、リンに対する患者の認識が変化したことが有効であったと推測する。